

BUSINESS REPORT



三井金属

株主の皆様へ

なるほど!
三井金属

Management Interview
機能材料事業本部長

第95期
上半期報告書

2019年
4月1日

2019年
9月30日

証券コード:5706

トップメッセージ

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

第95期上半期が終了しましたので、ご報告申しあげます。

三井金属グループの上半期の業績につきましては、売上高は前年同期比125億円減少の2,381億円となりました。経常利益は、機能材料セグメントにおける主要製品の販売量の減少や、金属価格が想定を下回って推移したことなどから、前年同期比60億円減少の49億円となり大変厳しい結果となりました。

下半期も厳しい事業環境が続くと予想されることから、11月に通期業績予想を下方修正いたしました。三井金属グループとしましては、引き続き全社を挙げて収益改善に取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申しあげます。

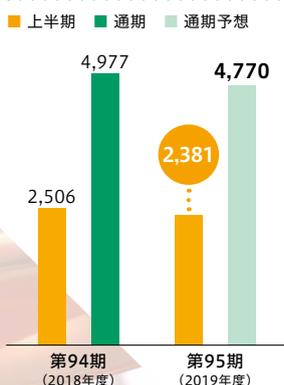
にしだ けいじ
代表取締役社長 西田 計治



財務ハイライト

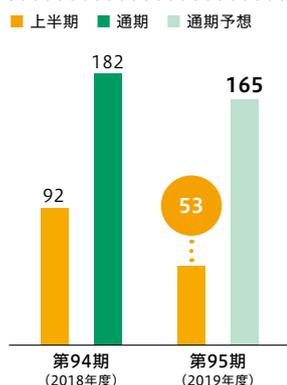
売上高

(億円)



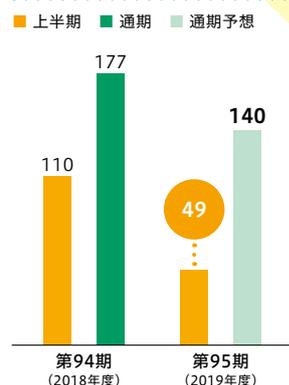
営業利益

(億円)



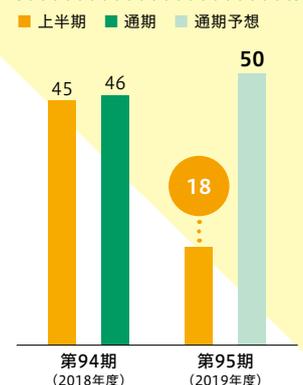
経常利益

(億円)

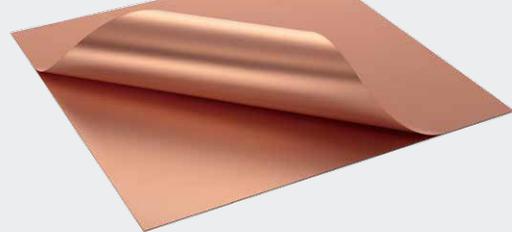


親会社株主に帰属する

四半期(当期)純利益 (億円)



※ 通期予想につきましては、2019年11月11日現在において入手可能な情報に基づき作成したものでありますので、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。



なるほど! 三井金属

左ページを開くと
「なるほど! 三井金属」の詳細を
ご覧いただけます。

1 Management Interview

今回は、機能材料事業本部における「19中計」の進捗や今後の戦略についてご説明します。併せてトップシェア製品のキャリア付極薄銅箔「MicroThin®」をご紹介します。

2 ESGへの取り組み

三井金属グループでは、製品やサービスが経済的価値に加え、社会・環境課題の解決という価値を持つことで持続的な成長が可能と認識しています。今回はSDGsに貢献する製品の一例をご紹介します。

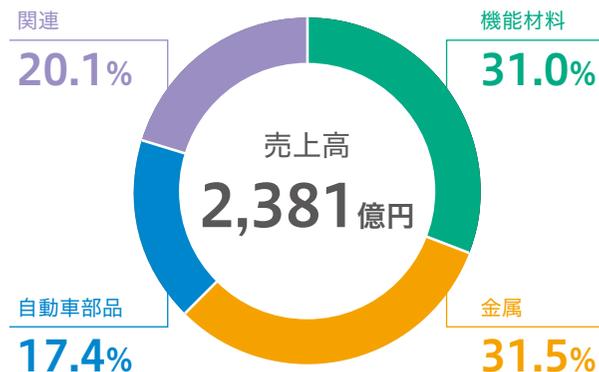
セグメント別業績の概況

機能材料セグメントは、四輪車向け排ガス浄化触媒の需要が堅調であったものの、電子材料用金属粉などはスマートフォン向け需要が低調であったことなどから、売上高は減少。経常利益は、主要製品の販売量減少に加え、インジウム価格の下落に伴う在庫要因が悪化したことなどから減少。

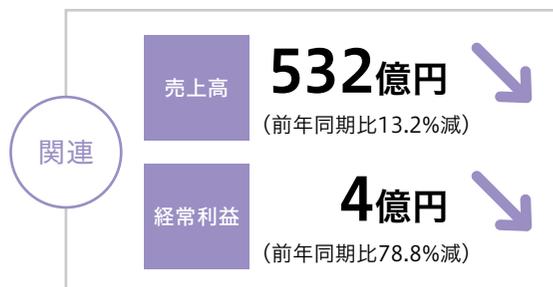
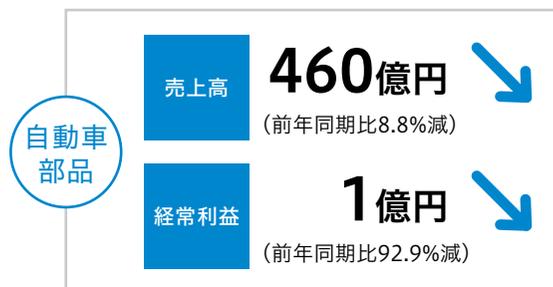
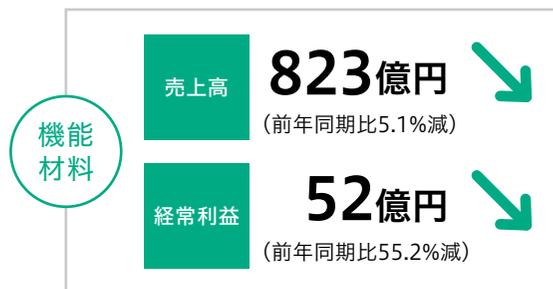
金属セグメントは、亜鉛・鉛のLME(ロンドン金属取引所)価格が下落したことなどから、売上高は減少。経常利益は、原料の調達条件の改善や水力発電設備による売電収入などにより増加。

自動車部品セグメントは、国内市場は堅調であったものの、中国や米国市場は低調に推移したことから、売上高、経常利益ともに減少。

関連セグメントは、各種産業プラントエンジニアリングにおいて、国内グループ企業向け工事の完成工事高が減少したことなどから、売上高は減少。加えて当セグメント内の持分法による投資損益が悪化したことなどから経常利益も減少。



※ 各セグメントの売上高および経常利益はセグメント間の内部売上高または振替高を含んでいます。



機能材料事業本部長



代表取締役常務取締役
兼 常務執行役員
機能材料事業本部長
のう たけし
納 武士

市場共創型事業体の実現に向けた施策を着実に実行し、
新規事業や新たな市場を創出し続けていきます。

機能材料事業本部の「19中計」の進捗状況

機能材料事業本部は、「19中計」において、「市場共創型の事業体」※を実現するために「成長基盤の変革」をスローガンとして掲げ、「新規事業創出のための取り組み」「更なる成長のための仕組み作り」を基本戦略としています。

「新規事業創出のための取り組み」は、お客さまやベンチャー企業、パートナー企業との連携により順調に進捗しています。本年6月には、京都大学発ベンチャー企業である株式会社Atomis(京都府京都市)へCVC(コーポレート・ベンチャーキャピタル)を通じて出資し、同社の持つ多孔性材料の環境エネルギー領域での実用化に共に取り組んでいます。

「更なる成長のための仕組み作り」では、事業本部の機能強化に向けて、特に新規事業化の推進に組織的に取り組んでいます。研究開発品を世の中に送り出すために必要となる、仕入れ・製造・販売といった機能構築のためのサポート体制を強化し、新規事業の立ち上げを推進していきます。

収益面では、計画以上に進捗している事業がある一方、米中貿易摩擦や日韓問題の影響などを受けた電子部品向け製品や、相場下落と競争激化が進む薄膜材料製品で販売が低迷するなど、計画との乖離が生じている事業もあります。計画達成に向け、これ

まで以上にメリハリをつけた経営資源の投入を進めていきます。

※ 次々に新規市場を開拓し、成長事業や成長商品を創出する組織体。

今後の成長戦略

機能材料事業本部には、半導体パッケージ向けのキャリア付極薄銅箔「MicroThin®」やハイブリッド車向けの電池材料など、いくつものトップシェア製品があります。その多くが新たな市場の創出と共に成長を遂げたものであり、同様の市場共創型による新規事業の創出が今後の成長に向けた最重要課題であると認識しています。

世の中の変化は加速し続けていますが、それは同時に製品ライフサイクルの短期化も意味します。そのため、持続的成長を実現するためには、市場の動向や技術の変化をいち早く捉え、「マテリアルの知恵」を活かした価値ある製品を投入する必要があります。

当社は、長年培ってきたコア技術やノウハウ、販売チャネルを活用し、これからの成長が期待される5Gや自動運転に対応した製品、新たな環境対応製品などの市場ニーズに、タイムリーに対応していきます。加えて、市場共創型事業体の実現に向けた施策を着実に実行し、新規事業や新たな市場を創出し続けていきます。



事業を通じたSDGsへの貢献



【機能材料】



- 自動車の電動化や5G対応モバイル端末を実現する **機能性粉体の開発、銅箔5G関連製品※の拡販**
 ▶ モビリティやエレクトロニクス産業の発展
 ※ 高周波基板用電解銅箔「VSP®」、キャリア付極薄銅箔「MicroThin®」など
- 世界各国の排出ガス規制に対応した **四輪車向け排ガス浄化触媒を開発** ▶ 地球環境の保護と経済発展
- 電気自動車の航続長距離化や急速充電を可能にする、**固体電解質をはじめとした車載電池用部材を開発** ▶ 地球温暖化の緩和・抑制

【金属】



- 従来の鉱石を原料とする非鉄製錬から廃バッテリーや廃基板などを原料とする **リサイクル製錬への構造転換を加速** ▶ 循環型社会の構築

【自動車部品】



- 自動車の電動化や自動化に対応する **ドアロック製品を開発** ▶ モビリティ産業の持続可能な発展
- 生産現場へのICT※導入などによる **スマートファクトリーの構築** ▶ 経済成長に貢献

※ Information and Communication Technology (情報通信技術) の略。

2019年8月に「統合報告書2019」を発行しました。ぜひご覧ください。
https://www.mitsui-kinzoku.co.jp/toushi/lib/integrated_report/

トップシェアを誇る三井金属

キャリア付極薄銅箔「MicroThin®」



キャリア付極薄銅箔「MicroThin®(マイクロ・シン)」ってなに？

厚みのある銅箔(キャリア)の上に極薄の銅箔を製箔した銅製品で、絶縁基材と貼り合わせた後、キャリアを剥がして使用します。キャリアを支持体とすることで、銅箔単体では不可能であった薄さ(1.5~5μm)が実現できました。スマートフォンやタブレット端末など、電子回路基板に欠かせない材料として広く使用されています。

半導体
パッケージ基板向け
世界シェア



MicroThin

「MicroThin®」がトップシェアを獲得・維持する秘訣

「MicroThin®」は、世界シェア90%以上を誇る機能材料事業本部の主力製品です。当社が高いシェアを維持している理由は、需要変動に対応することができる生産能力、安定した品質や供給能力、お客さまのニーズに応える技術力と開発力です。電解銅箔の市場規模は4.5万t/月とされていますが、なかでも「MicroThin®」は5G関連の通信インフラ事業立ち上げに伴い、今後も一層の市場拡大が期待されています。このような需要増に対応するため、当社ではマレーシアの工場(MITSUI COPPER FOIL (MALAYSIA) Sdn. Bhd.)の生産能力増強などにより、国内外で390万m²/月の生産体制を整えました。

「MicroThin®」を取り扱う銅箔事業部では、「機能箔」で新たな価値を成長市場へ提供」をShared Valueとして掲げ、メガトレンドと当社コア技術をつなぎ合わせることで更なる成長を目指していきます。



2019

上半期トピックス

上半期(2019年4月1日~2019年9月30日)の
主な取り組みについてご紹介します。



社外取締役
三浦 正晴
(みうら まさはる)



社外監査役
武川 恵子
(たけがわ けいこ)

6月

第94期定時株主総会にて会社提案議案を承認可決

2019年6月27日に第94期定時株主総会を開催し、剰余金の処分、取締役任期を2年から1年に短縮する定款変更など、すべての会社提案議案が可決されました。なお、社外取締役として三浦正晴、社外監査役として武川恵子が新たに選任されました。



鏡面のような優れた表面平滑性を持つ「VSP®」

高周波基板用電解銅箔「VSP®」の生産能力を増強

高周波基板用電解銅箔「VSP®」は、データ通信の高速化・大容量化により需要が高まっています。そのため、台湾の工場(台湾銅箔股份有限公司)の生産能力を従来の2.4倍に増強し、スマートフォンの5G運用開始などの需要にも応えることができる体制を構築しました。

7月

環境エネルギー領域ベンチャーへの出資

新規事業創出に向けて、MOF※を活用した新たな機能材料を開発する株式会社Atomisへの出資を行いました。同社への出資を通じて、MOFの製造面における協力、MOFを用いたアプリケーションの普及に貢献します。

※ Metal Organic Frameworks(金属有機骨格構造)の略。ナノサイズの細孔を持ったスポンジのような構造。選択性の高い吸着や脱着が可能であり、従来の材料にはない機能を発現する画期的な吸着剤。細孔の大きさ、形状、性質をデザインすることでガスや低分子化合物を特異的に吸着させ、分離・合成・触媒・イオン伝導・電気伝導・ドラッグデリバリーなどの様々な機能を付加できることが知られており、幅広い産業に貢献できる材料として期待される。

7月

四輪車向けガソリンエンジン用GPF触媒を開発

四輪車向けガソリンエンジンから排出されるカーボン系パーティクル(スス)の捕集性能と排ガス浄化性能に優れたGPF※触媒を開発。2022年から量産車への採用が決定しました。

※ Gasoline Particulate Filterの略。



GPF触媒生産棟完成予想図(中国)

Special Report

右ページを開くと「Special Report」がご覧いただけます。



詳細は、ニュースリリースをご覧ください。

https://www.mitsui-kinzoku.co.jp/news_b/?get_year=2019



四輪車向けガソリンエンジン用GPF触媒を開発

排ガス浄化触媒は、自動車などの排出ガスに含まれる一酸化炭素・窒素酸化物・炭化水素などの人体に有害な物質を、二酸化炭素・水・窒素といった無害な物質に変える役割を担っています。

近年、各国の排出ガス規制強化により、これまでの有害物質に加えて、カーボン系パーティクル(スス)の排出抑制が求められており、当社はこの規制に対応するため、四輪車向けガソリンエンジン用GPF[※]触媒を新たに開発しました。

当社のGPF触媒は、今までの常識にとらわれない発想と、微細なハニカム状のセラミックス担体に触媒を剥がれにくくコーティングする技術、浄化性能を持つ貴金属の配置設計など、これまで培ってきた技術・ノウハウにより規制強化に対応した高い捕集・浄化性能を有した製品です。

※ Gasoline Particulate Filterの略。

電気自動車などを除く、触媒を必要とする自動車は2030年時点でも市場全体の80%以上を占める見通しです。そのような市況において、排出ガス規制がより厳しくなった中国・欧州ではGPF触媒の導入が開始されており、その市場規模は2018年の約200万台/年から2023年には約3,000万台/年にまで拡大すると予測されています。また、北米・インドなど、その他の地域においても排出ガス規制の強化が検討されていることから、今後更に市場は拡大すると見込まれます。

拡大が見込まれるGPF触媒の市場規模

約**3,000**万台/年

Special Report



環境に貢献する

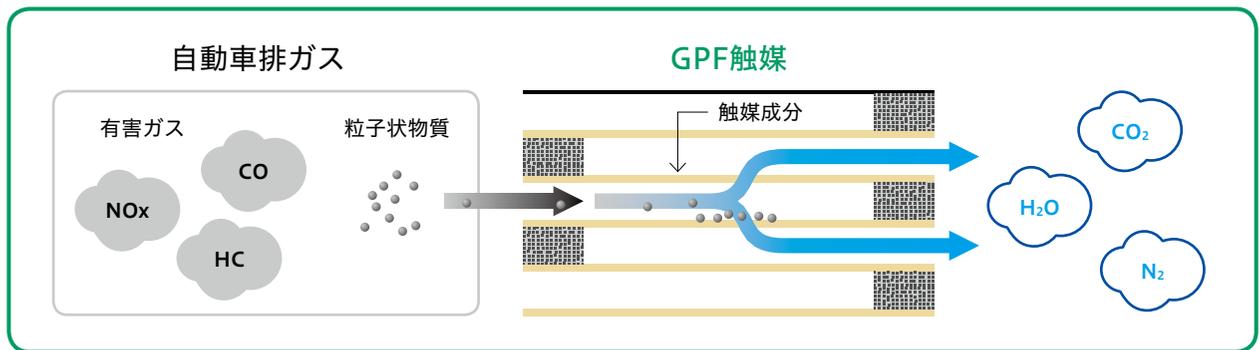
「触媒」

2022年からの量産車への採用が決定

高い性能を評価された当社のGPF触媒は、2022年から量産車への採用が決定し、現在量産準備を始めています。四輪車向け排ガス浄化触媒は5拠点(日本、米国、インド、中国、インドネシア)で製造していますが、GPF触媒については日本(埼玉県上尾市)および中国(三井金属(珠海)環境技術有限公司)での製造を予定しています。日本は2020年5月末、中国にお

いては2020年7月末に生産ラインを完成させ、2020年度にはサンプルの提供を開始する予定です。

今後も、工場の生産能力増強、稼働率の最大化を図り、世界各国の排出ガス規制の強化を絶好の事業機会と捉え、差別化された技術でお客様のニーズに応えることで確実な成長を図ります。

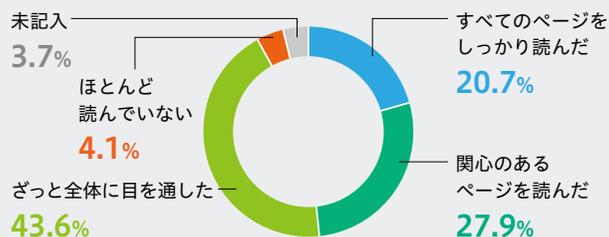


株主様アンケート結果のご報告

本誌「BUSINESS REPORT」第94期報告書にて実施させていただきました本誌に関する「株主様アンケート」では、皆様から多数のご協力をいただき、誠にありがとうございました。以下にアンケート結果の概要をご報告いたします。

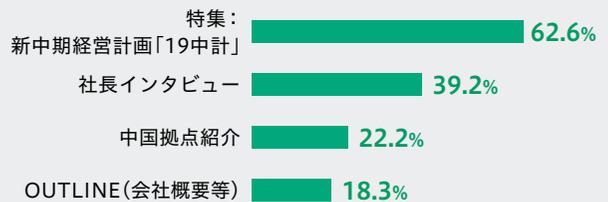
アンケート実施期間：2019年6月27日～2019年7月31日 有効回答数：4,878件(回答率13.3%)

Q1 どの程度読んでいただけましたか

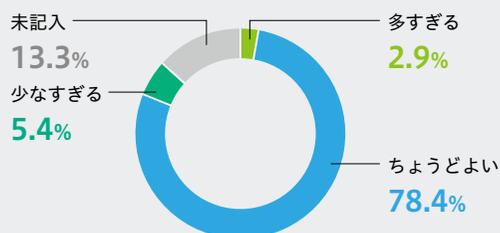


Q2 どの掲載内容を中心にご覧になりましたか

複数回答可

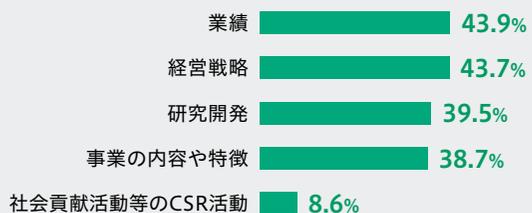


Q3 提供されている情報量は十分でしたか



Q4 今後、充実を希望する情報をお選びください

複数回答可



今後も、株主の皆様からのご意見をお聞かせいただきながら、IR活動や「BUSINESS REPORT」紙面の充実に向け取り組んでまいりますので、引き続きご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

OUTLINE

会社概要 (2019年9月30日現在)

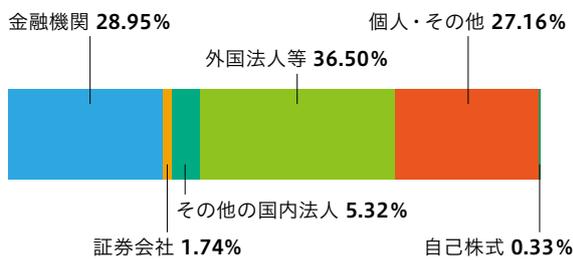
商号 **三井金属鉱業株式会社**
(Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd.)
[呼称: 三井金属/MITSUI KINZOKU]

本店 東京都品川区大崎一丁目11番1号
設立 1950年5月1日
資本金 42,129百万円

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行可能株式総数 190,000,000株
発行済株式総数 57,296,616株
株主数 37,386名

所有者別株式分布状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,865	8.52
JP MORGAN CHASE BANK 385632	3,729	6.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,705	6.48
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000	1,812	3.17
JPMC GOLDMAN SACHS TRUST JASDEC LENDING ACCOUNT	1,207	2.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,085	1.90
三井金属社員持株会	1,076	1.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,068	1.87
JPMCB OMNIBUS US PENSION TREATY JASDEC 380052	1,039	1.82
JP MORGAN CHASE BANK 385151	858	1.50

※持株比率は自己株式(190,111株)を控除して計算しております。
※持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

株主メモ

定時株主総会の議決権の基準日 3月31日
期末配当の基準日 3月31日
中間配当の基準日 9月30日
定時株主総会 6月下旬

株主名簿管理人・特別口座管理機関
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同連絡先
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-782-031

公告の方法

電子公告とする。(https://www.mitsui-kinzoku.co.jp/)
ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。

〈株式事務のお取扱い〉

- 未払配当金の支払いのお申出先
左記三井住友信託銀行にお申し出ください。
- 住所変更、単元未満株式買取等のお申出先
 - 証券会社の口座へ株式をお預けになられている株主様は、お取引のある証券会社にお申し出ください。
 - 証券会社の口座へ株式をお預けになられていない(特別口座に記録されている)株主様は、左記三井住友信託銀行にお申し出ください。

ホームページのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報など当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。

株主・投資家情報



「個人投資家の皆さまへ」では、事業内容や専門用語の解説、株式事務手続きなどの情報をまとめてご紹介しています。

三井金属

検索

<https://www.mitsui-kinzoku.co.jp/>



三井金属鉱業株式会社

総務部

〒141-8584 東京都品川区大崎一丁目11番1号
TEL: 03-5437-8240



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。